

2027.4.8(木) - 7.24(土)

PEACE
BOAT
CRUISE
VOYAGE 126

Y126-D



旅行企画・実施 株式会社ジャパングレイス

新しい体験に出逢う旅



2027年4月春に出航し、アジアから初夏のヨーロッパ、北中米をめぐる世界一周クルーズ。旅行のベストシーズンと呼ばれる初夏には、地中海の人口・ポートサイド（エジプト）から、世界最北の首都・レイキャビク（アイスランド）まで、地中海・ヨーロッパ地域だけで13の寄港地を訪れます。北中米でも、ピースボートだから、この季節だから体験できる楽しさが盛りだくさん。さあ、まだ見ぬ体験に出逢う旅へ！

静寂に包まれたノルウェーのフィヨルドを進むパシフィック・ワールド号。天候によって見える表情が変わるこの地域で、雲の間から陽光が差し込んだときの一枚。

2024年6月 撮影

PEACEBOAT CRUISE

2027.4 Voyage126

P4-13

NOSTALGIC & NEW EUROPE BY CRUISE

- 懐かしくて新しい 船でゆくヨーロッパ
- 美しい初夏の北欧をめぐる
- ありがとう！ 優しくて美味しいギリシャの旅

P14-17

BEYOND TOURISM, EXPERIENCES BROUGHT TO YOU BY PEACE BOAT

- 特別な経験をあなたに ピースボートだから出逢えるもの

P18-19

DESTINATIONS & PORTS

- 世界一周クルーズの旅 全寄港地一覧



Voyage126がめぐる、ヨーロッパ航路



NOSTALGIC & NEW EUROPE by CRUISE

懐かしくて新しい 船でゆくヨーロッパ

古くから人びとが海をわたり文化を融合させてきたヨーロッパ。2024年初夏のピースポートクルーズに同行した航海作家・カナマルトモヨシさんが、船旅だから体験することができる、その場所の楽しみを綴りました。



01

旅のはじまり ユーラシア大陸、最果ての地

北緯38度43分。新潟、仙台とほぼ同緯度にポルトガルの首都リスボンはある。ヨーロッパの船旅は、大航海時代を世界にもたらし、戦国の日本に南蛮渡来ブームを巻き起こした国より始まる。その港からザビエルが東洋に旅立ち、天正遣欧使節の4人の少年が欧州に第一歩を記した。そんな過去と、街角でイワシを焼く光景を見かけることで、日本から速く離れた街なのに、どこか懐かしさを感じさせる。出港したパシフィック・ワールド号は、テージョ川を下り、大航海時代の栄華を現在に伝える世界遺産・ジェロニモス修道院やベレンの塔をみながら大西洋に乗り出す。



リスボンならではの急こう配の坂道も名物の黄色いトラムがくると、たちまち撮影名所に変わる。

02

充実の移動時間 船の上でも世界一周

イベリア半島沿いに北緯40度線を越える航海。そこでは、ポルトガルでも第一線で活躍するシンガーのマヤ・ミリンコヴィッチさんのファドの歌声に酔いしれた。サウダーデ（郷愁）というポルトガル特有の国民性を音楽で具現化したファド。リスボンでは、ライブで聴くことができなかった。しかし、彼女のおかげでパシフィック・ワールド号のシアターは、さながらファドハウスの観を呈した。ラストコンサートが終わり、ようやくリスボンを離れた気になったものだ。その直後、ホイールハウスバーで「ビートルズナイト」が行われる。イギリス寄港前には必ずと言っていいほど実施されるこの企画は、船専属のバンドがザ・ビートルズの4人組に扮し、その名曲の数々を演奏する。バーは乗船者だけでなく、船員たちも集まり、熱気にあふれる。やがて誰もが曲にあわせて激しく体を動かす。リスボンからロンドンへ。誰の心の中も、すでに飛んでいた。

ヨーロッパ航海中の船上で 人気の企画の数々



マヤ・ミリンコヴィッチ LIVE



マスカレードパーティ



ビートルズナイト



フラメンコショー

世界中を旅してきたピースポートクルーズが、その経験と世界各地のネットワークを駆使して企画している船上イベント。「船の上でも世界一周」をテーマに繰り広げられる、「見る」だけでなく「体験型」エンターテインメントは、ときにはあなた自身がステージに立っていることも！あらゆる角度からお楽しみください。

03

歴史を感じる航海 街歩きで見かける今昔と 人びとの交流が生み出す未来

翌日・アーブル（フランス）に入港。まず、セヌ川の対岸にあるオンフルールという港町に行った。中世以来の交易で栄えた旧港を中心に広がる古くも可愛い街並みが魅力的だ。その一方、80周年を迎えたノルマンディー上陸作戦（1944年）を記念する土産物の数々が売られる。そのギャップに、戸惑いも覚えた。

第2次世界大戦中、ル・アーブルはドイツ軍の占領下にあったため、ノルマンディー上陸作戦に成功した連合軍の攻撃により多くの人命と古い街並みが失われた。現在の整然とした街並みは戦後の都市計画で再生したものの。ともにブーダンやモネといった印象派の画家たちが好んで描いた古い街並みを持ちながら片方はそれを当時のまま残し、もう一方は灰燼に帰しながらも生まれ変わった姿が世界遺産に登録された。セヌの両岸に位置する2つの街の対照的な歩みが垣間見える寄港だった。

企業とNGOがタッグを組む旅行企画



ピースポートクルーズでは、「旅行」という特別な経験が、エシカル（倫理的）でサステナブルなものであることを目指し、受け入れる人びとや国々との相互理解が深まる旅作りをしています。国際NGOピースポートが船旅をコーディネートすることによって、その幅はいち企業での取り組みより数段の広がりをみせています。例えば本船パシフィック・ワールド号は、国連SDGsキャンペーンの公式キャンペーン船と認定されています。



04

旅情を味わう
ひとくせありな入国

ル・アーブルを出た船は北緯50度を超え、ドーバー海峡を渡る。そして翌日の午前中、テムズ川の河口に達した。8万トン近いパシフィック・ワールド号はその大きさゆえにテムズ川をさかのぼってロンドンまで乗り入れることはできない。しかし、ピースボートがチャーターしたテムズ川遊覧ボートに乗り換えてロンドンの中心部を目指す。それは1時間ちょっとの小さな、しかしエキサイティングな船旅であった。

経度0度0分0秒にあり本初子午線が通る河港都市としてユネスコの世界遺産に登録されるグリニッジの街並みや、復元保存されている19世紀の快速帆船カティーサークを眺め、タワーブリッジをめぐり世界遺産のロンドン塔、シャードやコココーラ・ロンドン・アイなど現代ロンドンのシンボリックな建築群を見ながら、世界遺産ウェストミンスター宮殿や時計台（ビッグ・ベン）までのリパークルーズ。これだけでも大満足のロンドンツアーである。

北緯51度30分に位置するロンドン。すでに日本最北端の宗谷岬（北緯45度31分）を北に大きく越えている。足かけ2日間のロンドン滞在では、短編小説『倫敦塔』を書いた夏目漱石の下宿跡や、ビートルズゆかりの地をめぐることに費やした。



The Beatles Tour - Another Story
ビートルズゆかりの地、アナザーストーリー
続きは特設ページへ！

https://info.pbcrui.se/jp/v126_qr01



毎時ビッグ・ベンが奏でるメロディ、通称「ウェストミンスターの鐘」は、かつて学校で毎日聞いていたチャイムの音だった。

パシフィック・ワールド号はテムズ川を下って北海へ乗り出す。

北欧にいたノルマン人は9～12世紀、海洋に進出。バイキング（入江の民）と恐れられた彼らの交易と海賊行為、さらに移住をともなった大航海は中世ヨーロッパ社会に大きな変革をもたらした。それがひと段落した12世紀に生まれたのがハンザ同盟。これは北ドイツから西はフランドル、東は現在のポーランド・バルト諸国・ロシアにおよぶ広域の商業都市が結成した都市同盟だ。14世紀に最盛期を迎え、主権国家体制が確立する近世初期まで大きな勢力を持った。

ここからは、ポルトガルがその先駆となった大航海時代のさら

に昔、バイキングの航海とハンザ同盟の隆盛をたどるタイムスリップ航海でもある。いや、その前からすでに中世にさかのぼる船旅は始まっている。現在のフランス北部に侵入したノルマン人はノルマンディー公国を建て、ル・アーブルのある地方はいまもノルマンディーと呼ばれる。さらにノルマンディー公ウィリアムはイングランドを征服してノルマン朝を建てた。彼はテムズ川クルーズで見たウェストミンスター寺院で戴冠式を挙げ、ロンドンを外敵から守るために建設した要塞がロンドン塔であった。やがてロンドンはハンザ同盟の在外商館が置かれる重要な都市となった。



ハンザ商人居住区に、14世紀に建設された貯蔵用の「ブリッゲン」と呼ばれる倉庫群。のちに世界遺産に登録された。

05

行き先は地球
その土地が育むものをまるごと体感する

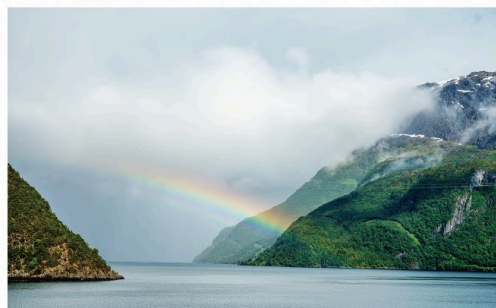
ついにアラスカと同じ北緯60度以北に達する。ロンドンと並んで商館が置かれた港町ベルゲンである。バイキングが船で運んだ干しダラは保存食として人気が高く、ハンザ商人たちはこれを買付けするため、タラの産地ベルゲンに進出した。彼らの居住区に商品貯蔵用の倉庫が建てられ、それはブリッゲンと呼ばれた。現在、ブリッゲンは世界遺産に登録され、中世以来の街並と細い道をハンザ同盟の繁栄を思いつつ歩いた。

ベルゲンを出港した翌朝、目覚めるとパシフィック・ワールド号はフィヨルドの中にいた。フィヨルドとはノルウェー語で「深く入り込んだ湾」という意味。約100万年前に北欧全体を覆っていた分厚い氷河が少しずつ溶けだし、谷底を削りながら海へと流れていった。その結果、いま目の前に広がる複雑に入り組んだ海岸線が生まれたという。それはまさに地球が造り上げた芸術であり、そこにいる我々はきょうだけ「入江の民」すなわちバイキングの気分を堪能することができる。



パシフィック・ワールド号はゆっくりとソグネフィヨルドを進む。ヨーロッパ本土で最長の204キロメートルにして最深（最も深い部分で1308メートル!）のフィヨルドがここにある。海に落ち込む急斜面を大きな滝が流れ、高くそびえる山の頂を白い雪が覆う。ノルウェー・ウツ（ノルウェーの森）に包まれた峡谷を進む大型客船も、ここではまるで小舟のようにしか見えない。フィヨルドは息つく暇を与えない。次から次へと、海にいたとは思えぬような狭隘な水路が現れ、船の両側にごつごつとした岩肌が迫ってくる。そしてフィヨルド沿いにある集落を形成するカ

ラフルな家々に目を奪われた。これらのなかにはバイキング以前の時代にまでさかのぼる古い漁村も数多く点在するという。中世ヨーロッパ各地に進出し、その社会を現代にまで影響を与えるほどに大きく変えたバイキング。そのルーツを、これらの風景に見る思いがする。この日、フィヨルドの天候は雨、晴れ、そして雨と目まぐるしく変わった。しかしフィヨルドの奥深くでは青空が広がる。そして、雨上がりのフィヨルドには大きな虹がいくつもかった。まるで、ここまで来た私たちへのご褒美のように。



カナマルトモヨシ
航海作家

日本各地のみならず世界の五大大陸をクルーズで訪問した経験を持つ航海作家。世界の客船を紹介する『クルーズシップ・コレクション』での執筆や雑誌『クルーズ』（海事プレス社）に連載記事やクルーズレポートを寄稿している。

Go North!

さらに、北上

美しい初夏の北欧をめぐる

ストックホルム スウェーデン

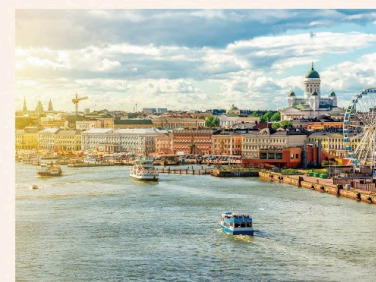


第二次世界大戦の戦禍を免れたこともあり、首都ストックホルムには中世から続く歴史ある街並みがそのままに保存されている。とくに、旧市街「ガムラスタン」は、スウェーデン・バロック様式の王宮や大聖堂、ノーベル博物館など見どころが盛りだくさんだ。

上/歴史とモダンが共生するストックホルム。左/ガムラスタンは、石畳とカラフルな街並みのコントラストが美しい。右/水の都としての街並みも魅力的。



ヘルシンキ フィンランド



ムーミンやサンタクロースの故郷としても知られるフィンランドには、フィンランド式サウナやマリメッコをはじめとする可愛いテキスタイルなど、世界を魅了する多くの楽しみが詰まっています。

上/白亜の外観に緑のドームが印象的なヘルシンキ大聖堂が街のシンボル。左/世界最大規模の海防要塞としてつくられ、今はピクニックの島として人気のスオメンリンナ島。右/首都でありながらコンパクトな街は、街歩きにぴったり。



コペンハーゲン デンマーク



童話作家アンデルセンが愛した港町「ニューハウン」は、色とりどりの建物とオープンカフェやレストランが軒を連ねる、コペンハーゲンを代表する観光スポット。市庁舎前広場からコンゲンス・ニュート広場までを結ぶショッピングストリートは、世界初の歩行者天国としても有名だ。

上/入り江に浮かぶ帆船が絵になるニューハウン。左/運河沿いにはアンデルセンが暮らした家が残る。右/ランゲリニエ埠頭沿いにたたずむ人魚姫の像。



レイキヤビク アイスランド



中心地にレストランやショッピングができるポイントが集まっているので散策しやすいのが特徴。コーヒーの消費量が世界一といわれる北欧ならではの、街にはコーヒースタンドやオープンカフェが数多くある。

上/レイキヤビクの北、ヴィーズエイ島には芸術家オノ・ヨーコさんが手がけた屋外芸術作品「イマジネースタワー」がある。左/独特の形が異彩を放つハットルグリムス教会。右/高さ70メートルも吹き上がる間欠泉。吹き上がるたび、歓声があがる。



Ευχαριστώ

“エウハリストー”（ありがとう）

COFFEE



暑い季節、ギリシャで定番の飲み物といえば「フレッド・カプチーノ」。プラカ地区のカフェ『bookbar by Kaktos』でいただいたそれは、氷入りのエスプレッソの苦みとふんわりと泡立てたミルクがマッチして美味しい。お好みでお砂糖を追加して召し上がれ。



MARKET



その土地の食文化を知りたいなら、マーケットを訪ねるのがいい。『アテネ中央市場』は、さまざまな食材がなんでも揃うアテネ市民の生活に欠かせない場所のひとつ。「朝、揚げたばかりだよ」と元気いっぱいなお姉さんが話しかけてくれた。



ありがとう！優しくて美味しいギリシャの旅

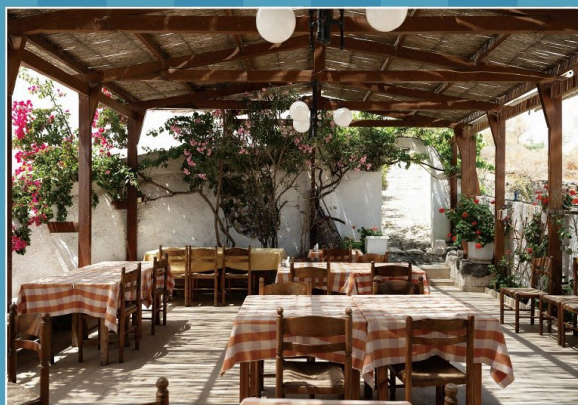
アテネとサントリーニ島。ギリシャのふたつの街を旅してみたら、アフリカや中東、そしてヨーロッパ文化がミックスされた、魅力的なギリシャの素顔が見えてきた！いざ、異文化の見事な融合を味わう味覚の旅へ。

RESTAURANT / ATHENS



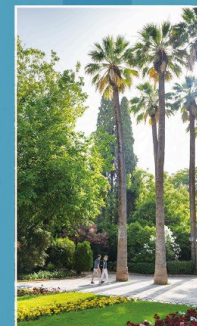
バルテノン神殿に向かう坂道の途中にあるレストラン『Dioskouroi』。遺跡群を眺めながらいただくギリシャの名物料理はどれも絶品。フェタチーズを崩しながらいただくグreekサラダは、「旬の野菜を使うので、時期によって内容が変わるよ」とウェ이터のお兄さんが教えてくれた。

RESTAURANT / SANTORINI

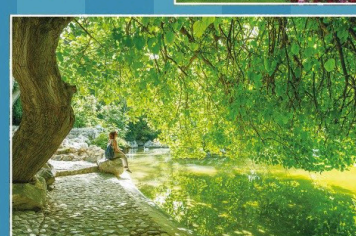


ティラの観光中心地から少し離れると、地元の人々が集うリラックスした雰囲気のレストランもある。ラム肉のシチューやムサカなどの家庭料理を提供する『Taverna Simos』では、店員のサソジュさんがニコニコと迎えてくれた。トルコなどの影響からか羊肉を使った料理も多い。

NATIONAL GARDEN



シンタグマ駅の東側エリア一帯に広がる大きな国立庭園は、地元の人たちの憩いの場所。街歩きに疲れたら、サンドウィッチとコーヒーをテイクアウトして、森林浴をするのもおすすめ！木陰やベンチが多く、カメと水鳥のいる小さな池を眺めながら、ゆったり過ごせる。



VEGETABLES

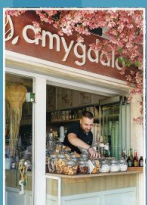


アテネの街歩きをしていると、青空市に出会うことも。新鮮な野菜や果物は量り売りで、少量から購入可。小腹がすいたら、ギリシャの代表的な軽食「スפיナコピタ」を。ディルやミントをたっぷり使った、ほうれん草とフェタチーズのパイで、シンプルで美味しい。

SWEETS



中東からのルーツをもつスイーツが多いギリシャ菓子は、ひと口噛むと「ジュワー」とした甘さが身体中に広がる、病みつきになる甘さ！プラカ地区にある『Amygdalo Shop』は、オーガニック素材の手作りスイーツショップとしてにぎわう。



Beyond Tourism, Experiences Brought to You by Peace Boat

特別な経験をあなたに
ピースボートだから出逢えるもの



①



④



⑤



③



⑥

Alaska アラスカ

船につらなる、ダイナミックな地球の姿

世界中の人びとを魅了する、アラスカの大自然に本船ごと繰り出します。



⑦



⑧

①②③⑤ 壮大なアラスカフィヨルドを遊覧
/2024年7月撮影 ④ 遊覧日のレストランは
氷の彫刻で彩られる ⑥ アザラシ ⑦ クジラ
⑧ 遊覧記念ドリンクも堪能

クルーズ客船という海に浮かぶリゾートに100日余と滞在しながら、その間世界各地に立ち寄っていく—そんな、夢のような究極の旅が世界一周クルーズです。いにしへの旅人もその姿を目に焼き付けた世界遺産や、地球誕生46億年の中でつくられた大自然が織りなす圧倒的な景色の数々はもちろん、“ピースボートで来てよかった”と思っていただけのような、特別な出逢いを数多く準備しています。

旅のハイライトとなる寄港地は、次々に訪れます。ガイドブック片手に歩くもよし、気の向くまま現地の空気を味わうもよし。あなたは大切な世界一周の旅を、どんなふうに過ごしたいですか？

Cristobal

クリストバル (パナマ)

アメリカ大陸と世界をつなぐ
世界海運の要衝“パナマ運河”
をその目で

全長80kmを約8時間かけて繰り広げられる、システマティックな通航劇。水や電気の力を駆使しながら、閘門や人造湖をゆっくりと進んでいく様子を船のデッキから眺めましょう。
亜熱帯気候特有の湿気を帯びた空気が全身を包み、水と土と、むせ返るような濃密な緑の匂いが未知の土地への興味をかきたててくれます。



美しい民族衣装「モラ」を纏う
パナマ先住民族クナ族コミュニティ訪問

20年以上にわたり、ピースボートの受け入れをしてくれている、古き友人たちを訪ねて先住民族のコミュニティへ。そこで目に飛び込んでくるのは、色とりどりのアププリケ刺繍が施されたモラ。古布を支援物資として届け、「手仕事交流」という素敵なコミュニケーションで、楽しいひとときがあつという間に過ぎていきます。

Aqaba

アカバ (ヨルダン)

謎多き伝説の古代遺跡
砂漠に浮かぶバラ色の古代都市

ヨルダンを代表する壮大な古代都市・ペトラ遺跡は、未だ発掘が終わらないほどの壮大なスケール。高さ約40メートル、幅約30メートルもの巨大で美しい宝物殿「エル・ハズネ」はこの世のものとは思えない美しさで、光の射す角度によって微妙に色合いを変えるバラ色の岩肌が、訪れたすべての人を魅了します。



誰でもできる国際協力
さまざまな支援物資を世界中に届けに

ヨルダンには、パレスチナや、内戦の続くシリア、イラクから多くの難民が逃れてきています。ピースボートでは、ヨルダンにある難民キャンプを度々訪れ、交流を行い、現地の人びとと顔の見えるつながりを作っています。そして、石鹸などの衛生用品や車椅子などを支援物資として届けています。

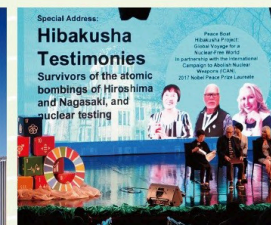


New York

ニューヨーク (米国)

世界の流行の発信地
全米一の大都市で楽しむ

世界経済の中心地として発展する大都市。街は高層ビルが立ち並び、ロックフェラー・センターから見下ろすマンハッタンに摩天楼には圧倒されます。巨大スクリーンや劇場看板がひしめくタイムズ・スクエアは、ニューヨークを代表するスポットで、世界中から人びとが訪れます。



ピースボートは船の上こそ、世界の最前線
国連とのタイアップ船上企画も

国連本部のあるニューヨークに訪問中は、日々国際社会で活躍するさまざまな人に出逢うチャンスです。ニューヨーク寄港時には、ピースボートの船を会場として、イベントや国際会議を開催します。また国連本部を訪問し、国際政治の現場を肌で感じるピースボートならではのツアーも人気です。

「世界のいま」を感じる 世界一周クルーズの旅 全寄港地一覧



**台湾
基隆**
彩りにあふれ、芳香ただよう街角。屋台から老舗まで、魅惑の台湾グルメをめぐる旅



**ギリシャ
ピレウス**
素材の魅力を存分に活かした、今注目の「地中海食」。ギリシャ料理とワインで乾杯！



**フィンランド
ヘルシンキ**
シンプルさと機能美を兼ね備えた北欧デザインや建築物の数々、森と湖に囲まれた首都へ



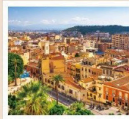
**米国
ニューヨーク**
画面越しに見た光景が目の前に！いつの世も人びとを魅了するドラマチックな世界都市



**メキシコ
マンサニージョ**
国内屈指のリゾート地で味わいたい、タコスやワカモレなどの魅惑のメキシコ料理



シンガポール
五感を刺激するコスモポリタンな街をめぐり、ルーツ入り混じる多国籍料理に舌鼓



**イタリア
カリアリ** [サルデーニャ島]
テラコッタ色の街並みに心惹かれて、海と太陽に愛される島で陽気なリゾート時間を



**デンマーク
コペンハーゲン**
爽やかな海風に誘われて歩くメルヘンな街。おとぎ話や戯曲の舞台を訪ねる旅



**コロンビア
カルタヘナ**
16世紀の街並みは世界遺産に。海賊たちの攻撃から守りを固めた美しいリゾートを堪能



**カナダ
バンクーバー**
住みやすい都市第1位！自然もアクティビティもマーケットも見逃せない人気の大都市



**マレーシア
ペナン島**
文化が交差し共存する世界遺産ジョージタウンで、マルチカルチャーを感じる街歩きを



**スペイン
モトリル**
歴史が生んだ光と影に魅惑されて。アンダルシアの宝石が手招くスペイン南部の街へ



**ノルウェー
ベルゲン**
名物のサーモンもたっぷり！シーフードサンドをお供に、北欧でのハイキングを楽しむ



**パナマ
クリストバル**
先住民文化が守り継ぐ美しい手仕事に触れる。未知な生き物が待つ地へ



**米国
スワード**
「最後の秘境」で味わうクルーズの醍醐味。悠久のときが刻んだ地球の足跡を訪ねて



**スリランカ
コロombo**
未知なる味と文化を求めて。熱気あふれるコロomboで出会うスリランカグルメの数々



**ポルトガル
リスボン**
“世界史を変えた港”に今も残るサウダーデ(郷愁)。入り組んだ路地をゆく魅惑の街歩き



**アイスランド
レイキャビク**
絶え間なく雄大な景色に抱かれたカラフルな街並み、北の大地で感じる地球の美しさ



**コスタリカ
ブントラナス**
希少な動植物が数多く生息する、エコツーリズム先進国で雄大な自然に抱かれる



**ヨルダン
アカバ**
どこまでも続く砂漠と岩山、見る者を凌駕する「月の谷」ワディラムで異世界旅行を



**フランス
ル・アーブル**
印象派絵画発祥の地をめぐり、憧れの世界遺産と対面する。“フランスの美”を感じる旅



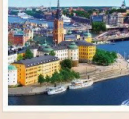
**エジプト
ポートサイド**
憧れ続けた神秘の地エジプトへ。歴史を紡ぐ、ロマンあふれる世界遺産との出会い



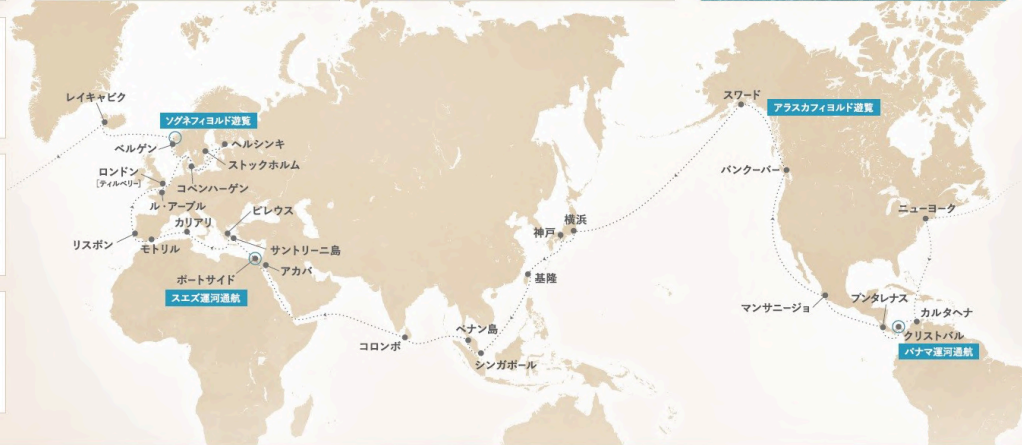
**英国
ロンドン** [ティルベリー]
市民の社交場・パブで出会う名物料理と文化体験、イギリスを感じるとっておきの時間を



**ギリシャ
サントリーニ島**
世界中の人をとりこにする絵画のような光景がここに。青く染まる海に抱かれた美しい島



**スウェーデン
ストックホルム**
中世から続くカラフルな街並みに心躍らせて。水辺の風景にとけあう北欧の美観都市



パシフィック・ワールド号でゆくピースポート地球一周の船旅
2027年4月 Voyage126

横浜発着108日間 2027.4.7(木) -7.23(金)

神戸発着108日間 2027.4.8(木) -7.24(土)

日程		寄港地	
4.7	水	出航 午後	横浜
4.8	木	出航 夜	神戸
4.11	日	入港 出港 朝 深夜	基隆 台湾
4.17	土	入港 出港 朝 深夜	シンガポール
4.19	月	入港 出港 朝 深夜	ペナン島 マレーシア
4.23	金	入港 出港 朝 深夜	コロombo スリランカ
5.3	月	入港 朝	アカバ ヨルダン
5.4	火	出港 夜	
スエズ運河通航			
5.6	木	入港 午後	ポートサイド エジプト
5.7	金	出港 深夜	
5.9	日	鑑泊 発 朝 夜	サントリーニ島 ギリシャ
5.10	月	入港 出港 朝 深夜	ピレウス ギリシャ
5.13	木	入港 出港 朝 午後	カリアリ [サルデーニャ島] イタリア
5.15	土	入港 出港 午前 深夜	モトリル スペイン
5.17	月	入港 出港 朝 夜	リスボン ポルトガル
5.20	木	入港 出港 朝 深夜	ル・アーブル フランス
5.21	金	入港 午後	ロンドン [ティルベリー] 英国
5.22	土	出港 夜	
5.26	水	入港 午前	ストックホルム スウェーデン
5.27	木	出港 午後	
5.28	金	入港 出港 午前 夜	ヘルシンキ フィンランド
5.31	月	入港 出港 朝 夜	コペンハーゲン デンマーク
6.2	水	入港 出港 午前 深夜	ベルゲン ノルウェー
ソグネフィヨルド遊覧			
6.6	日	入港 出港 朝 夜	レイキャビク アイスランド
6.13	日	入港 朝	ニューヨーク 米国
6.14	月	出港 深夜	
6.20	日	入港 出港 朝 夜	カルタヘナ コロンビア
6.21	月	入港 出港 午後	
6.22	火	出港 早朝	クリストバル パナマ
パナマ運河通航			
6.24	木	入港 出港 朝 夜	ブントラナス コスタリカ
6.28	月	入港 出港 午前 夜	マンサニージョ メキシコ
7.5	月	入港 出港 朝 深夜	バンクーバー カナダ
アラスカフィヨルド遊覧			
7.12	月	入港 出港 朝 夜	スワード 米国
7.23	金	帰港 朝	横浜
7.24	土	帰港 午後	神戸

※訪問地や航路は、天候や海の状況による船長判断、その他の理由により変更する場合があります。

0:00～	4:00～	6:00～	8:00～	12:00～	18:00～	23:00～
深夜	早朝	朝	午前	午後	夜	深夜

多様なニーズに合わせて選べる船室の数々

プライベート空間でも海を身近に感じられる、海側に面した船室を豊富に備えたパシフィック・ワールド号。旅の目的に合わせ、自由にお選びいただける船室設定です。



ご確認事項

- 天候や現地事情の影響により、入出港日時の変更や抜港になる場合がございます。
- 本船が沖合に停泊し、テンダーボートなどを使用して上陸する寄港地では、気象条件によっては上陸できない場合がございます。
- この旅行は地球の遠隔地への航海であり、天災地変、政治状況の悪化、現地官憲の命令など、当社が関与し得ない事由が生じた場合、乗客の安全を第一と考え、また航海の安全を考慮し、お客様に事前に、あるいは緊急の場合は変更後にお知らせし、旅行日程、旅行サービスの内容を変更する場合がございます。
- 航海日程は船長や船会社の判断によっても変更される場合があります。
- 上記のような不可抗力による変更の場合でも、払い戻しは一切ございませんので、予めご了承ください。
- 本パンフレット記載の寄港地に関する案内文および写真の一部は、オーバーランドツアー含むオプショナルツアー（有料）に参加された場合にお楽しみいただける内容を含んでおります。
- オーバーランドツアーは寄港地で一時下船して別の港で再合流するツアーです。
- 本パンフレットに掲載の写真は、お客様にピースポートクルーズのイメージをお伝えするものであり、過去に使用した別の客船で撮影された写真も含んでおります。また、季節に関わりなく全て旅のイメージです。
- 横浜港乗船の方は神戸港にて、また神戸港乗船の方は横浜港にて一時下船ができません。
- ご自宅から集合・解散地等発着港までの交通費は含みません。